

学童期以降（6歳～18歳）の障害児の医療需要に関する調査 通院、入院に関する問題と相談について

分担研究：発達的な視点から見た療育指導のあり方に関する研究

分担協力者 富和清隆¹、大塚信行²、川脇寿¹、尾崎元³、白石一浩¹

要約：学童期以降の障害児の医療需要と医療機関での対応の問題を明らかにする目的でアンケート調査を行った。大阪府下15肢体不自由養護学校在籍者全1168名の保護者に調査表を配布。病院併設校および生活課程在籍児を除く1020名を今回の検討対象とした。回答は無記名。医療・健康にかかわる多肢選択質問80項目と自由記載を依頼した。今回は通院・入院の問題、療育の相談について検討した。回答者は747名（73.2%）。障害の重度化に伴い、訓練や障害診断より小児科的診療の需要が多いこと、地域通院、入院、緊急医療とも障害児の医療需要に対応できていないこと、地域保健の役割の不十分な点が明らかとなった。

見出し語：障害児、学童・思春期、医療需要、学校、医療的ケア、地域保健

研究背景

平成7年度心身障害研究保健・福祉・医療にかかわる医療資源の有効利用に関する研究の中で、いわゆる肢体不自由児では学童期以降、それまでとは異なった医療需要がみられること、それらにあった医療機関側の対応と保健福祉教育の連携の重要性を示した¹。近年重度心身障害児の在宅化が進み、養護学校等で経管栄養などのいわゆる医療的ケアを必要とする児が増加し学校現場でそれらの児の健康保持に関して様々な課題が明らかにされつつあるが、問題の背景には障害の種別、程度を問わず、障害児一般への医療サービスの貧困さがあると思われる。障害児の健康管理に関する医療の現状を明らかにし問題解決の方向を見いだすことが小児医療の重要課題である。学童期以降の障害児の医療需要について、保護者に対するアンケート調査を行ったので報告する。

対象と方法

大阪府下15肢体不自由養護学校在籍者全1168名の保護者に学校またはPTAを通じ調査表を配布。病院併設校および生活課程在籍児を除く1020名を今回の検討対象とした。調査期間は平成8年9月2日より9月20日。回答は無記名。質問として、年齢・性別、病名（複数）、通院・入院状況とそれらに関わる問題、夜間・休日救急診療、健康・療育・福祉に関する相談、介助と家族状況、通学に関わる問題、障害・健康状態などに関する多肢選択80項目（一部複数回答）をあげ、また夫々について自由記載を依頼した。

結果

回答率は73.2%（747名、男406、女335、性不記載6）であった。病名では脳性麻痺（51%）、（点頭てんかん）後てんかん（15%）、小頭症、難治てんかん、水頭症、染色体異常が続く。

通院については近所にかかりつけ医ありとするのが62%。医療、療育機関に定期的に通うものは83%、60%であるが、就学後通院回数が減ったとするものが40%あった。通院中に困ったことがあると答えたのが39.1%で、通院中の困難としては医療機関の設備の不備（待ち合い、トイレなど）、交通に関することが多い。

休日などに急変したことがあるのは43%であるが、緊急機関を決めていないとするのが30%あった。その理由はかかりつけの医院や病院が対応していない、遠いが多かった。過去3年間に入院したのは39%。入院理由としては感染症、呼吸器疾患など小児科的疾患によるものがほぼ半数であった（図1）。入院中の困難では障害児に対する無理解（21%）、付き添いに関するもの（61%）が多い。

専門機関での相談について、かかりつけ医や専門医、療育機関での健康、療育に関する相談が多いものの、保健・福祉機関での健康、公的援助に関する相談は少なかった。保健機関での障害と療育に関する相談を別に聞いたところ相談すると答えたのは8%にすぎなかった。全体として48%が相談内容について満足していた。医療機関には障害に対する治療・訓練、見通し、健康管理についての更なる相談を希望しているのに対し、保健機関への更なる相談を希望するものは39%、うち援助資源・福祉に関するものが73%、ついで生活介助などが30%であった。

医療機関に専門機関以外に相談する人がいると答えた人は74.8%で障害者の親や学校と答えた人が多かった（図2）。

考察 近年、障害者の在宅ケアに関して医療機関と保健機関の連携が進められつつあるが、学童期以降の障害児の健康管理については主として学校保健活動として行われており、地域の医療機関との関係や地域保健活動との連携は必ずしも十分ではない。しかし、重度の肢体不自由児が在籍する学校では、いわゆる医療的ケアを必要とする児が増加し、その対応に迫られている。問題の解決には学校保健のみならず、地域の医療機関、保健・福祉機関との連携が必要である。連携は、しかし、障害の種別、程度を問わず障害児の健康保持には日常的に必要とされる。ところが、障害児の日常的医療需要は必ずしも満たされていないし、保護者や、学校関係者にも医療需要が理解されていない面もある。障害児の医療サービス総体の質の向上と教育機関との日常的な連携が得られて初めて、学校での医療的ケアの問題の解決の糸口が得られる。そのためには、障害児の医療需要と医療機関での対応の実態について明らかにすることが重要と考える。

大阪市立総合医療センター 小児神経内科¹、療育相談室²、小児内科³

Departments of Paediatric Neurology¹, Paediatrics², and Division of Educational Counselling², Osaka City General Hospital

保護者に対して障害児の医療需要に関するアンケートを行った結果のうち、通院や入院、療育に関わる相談について検討を行った。回答は対象1020名に対して747名、73.2%から得られ、質問が多岐にわたったにもかかわらず、この種のアンケートとしては回答率は高く、保護者の関心、意識の高いことが推測される。

病名では脳性麻痺のみを選択するものが多い一方、希な診断名を記載するものもあり、病態に関する理解は様でなかった。

通院については、医療・療育機関への定期的な受診が就学を境に明らかに減少していた。このことは療育の中心が、学校に移行することを意味する。しかし一方では、てんかんなどの合併症のために通院を必要とする人も多く、通院に関して障害児ゆえの困難を訴える人が多い。特に、待合いや、トイレに関する困難が多い。近年、障害者トイレがどの病院でも設置されているが、主として車椅子、半介助の障害者を想定しており、バギーやおむつを必要とするものには設備が十分でないことが明らかとなった。また、一般の受診者に混じり長時間、待合室に滞在することの困難を訴える人も多い。

入院については、介助のための付き添いや、費用が必要な個室対応を求められるとする回答が多かった。また、単に他の子供、保護者が嫌がるだろうとの理由で個室対応を求められたとするものもあった。周囲のものだけでなく医療スタッフの障害者に対する無理解を訴えるものも多い。入院の理由では、感染症、消化器、呼吸器疾患などいわゆる小児科的疾患が半数を占めた。健常児に比べて重症化しやすく、その傾向は年長児ほど強かった。

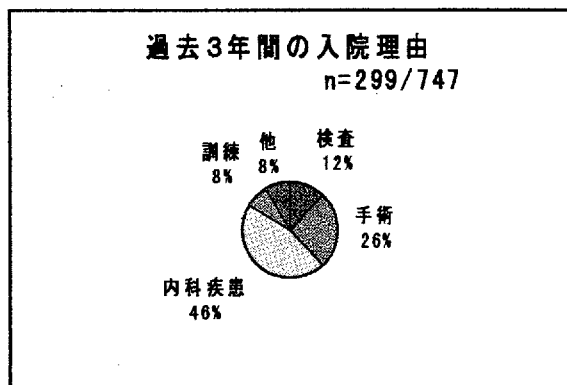
緊急時の対応についても、いつもかかっている医療機関では受け入れられない、遠いとするものが有り、地域の医療機関同士の連携の必要性が考えられた。

日常の問題に対する相談では、医療機関での相談に満足するものが多いのに対して、保健所などの保健機関での相談実績や期待はきわめて低いと考えられる。障害者の在宅ケアや健康増進には地域の保健医療情報を持つ機関の役割が重要であるが、看護職などの専門技術者を持つ機関にもかかわらず、保健所など保健機関の学童期あるいはそれ以降の障害者に対する支援は十分とはいえない。一方、専門機関以外では障害者の親同士の相談が多く、専門機関が援助を行う場合、親仲間の活動を考慮する必要がある。

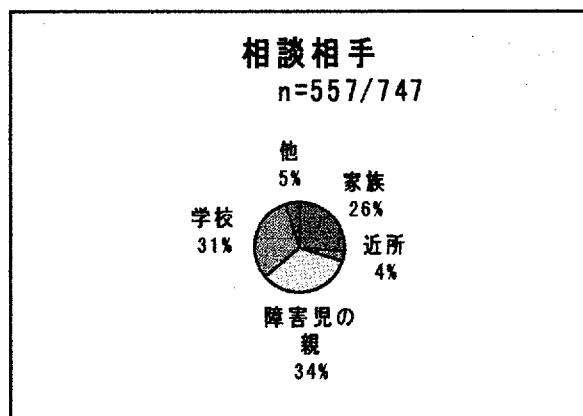
結論

- 1 医療機関の定期受診は就学を境に減少する。
- 2 学童期の医療需要としては障害の診断や療育・訓練よりも健康増進といわゆる小児科的疾患の治療が多い。
- 3 外来診療、救急医療態勢、入院医療とも障害児の顕在的、潜在的医療需要に対応できていない。
- 4 地域の保健・福祉機関は日常健康管理について支援する潜在的能力があるが、その機能が十分に活用されていない。

(図1)



(図2)

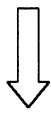


文献

- 1 富和清隆、川脇寿、大塚信行: 学童期以降の障害児の医療需要について 厚生省心身障害研究「保健・医療、福祉にかかわる医療資源の有効利用に関する研究」平成7年度研究報告書 pp231-233



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:学童期以降の障害児の医療需要と医療機関での対応の問題を明らかにする目的でアンケート調査を行った。大阪府下 15 肢体不自由養護学校在籍者全 1168 名の保護者に調査表を配布。病院併設校および生活課程在籍児を除く 1020 名を今回の検討対象とした。回答は無記名。医療・健康にかかわる多肢選択質問 80 項目と自由記載を依頼した。今回は通院・入院の問題、療育の相談について検討した。回答者は 747 名(73.2%)。障害の重度化に伴い、訓練や障害診断より小児科的診療の需要が多いこと、地域通院、入院、緊急医療とも障害児の医療需要に対応できていないこと、地域保健の役割の不十分な点が明らかとなった。